

論文審査の結果の要旨

氏名：足 田 匡 史

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：急性冠症候群診断に対する導出 18 誘導心電図の検討

審査委員：（主 査） 教授 高 橋 昌 里

（副 査） 教授 武 井 正 美 教授 仲 沢 弘 明

教授 國 分 眞 一 朗

本研究は、急性冠症候群、特に右心室や左心室後壁を灌流する冠動脈の閉塞による ST 上昇型急性心筋梗塞の診断に導出 18 誘導心電図を用いることが診断精度を上げることが出来るかどうかを検討する単一センターの後ろ向き研究により構成されている。導出 18 誘導とは、標準 12 誘導心電図のデータを特定のアルゴリズムを用いることによって 12 誘導に加えて V3R～V5R および V7～V9 の波形を導出しその波形を診断に用いるものであり、これまでに導出 18 誘導を急性冠動脈症候群の診断に用いた報告はない。本研究は、2014 年 10 月 1 日～2015 年 12 月 10 日までの間に日本大学病院を救急受診し冠動脈造影で急性冠動脈病変の部位診断が得られた 103 例の中で、ST 上昇型心筋梗塞と診断された 33 例を対象とした。そのうち右冠動脈病変 16 例中 11 例 (68.8%)、左回旋枝 6 例中 4 例 (66.7%)、左前下降枝 11 例中 3 例 (27.3%)、合計では 33 例中 18 例 (54.5%) の患者において、標準 12 誘導心電図では ST 上昇型心筋梗塞の診断に不十分で、導出 18 誘導の応用が診断に有効であったことを証明した。本研究は、実際に 18 誘導の電極を付けることなく通常の標準 12 誘導心電図による測定データを援用して解析し ST 上昇型心筋梗塞の診断精度を大幅に高めるという点で臨床的価値が高いと考えられた。

よって本論文は、博士（医学）の学位を授与されるに値するものと認める。

以 上

平成 28 年 2 月 17 日